

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させる手だて	表現力を向上させるための手だて	理解力を向上させるための手だて	言語や文化への知識・理解を向上させるための手だて
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席をさせ、教室整備・忘れ物点検を含め学習環境を整えさせる。 ・スムーズに英語学習に入れるよう、ウォームアップとしての英語活動(QA、ビンゴ、小テスト等)を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の歌、簡単なQA活動やTeacher Talkなどの生徒も参加しやすい教材を選ぶ。 ・前時の宿題や課題について提出させる際、ほめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を取り入れたQAやスピーチ等の活動で、表現させる時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって身近な話題をTeacher Talkで取り上げ、推測する力を養いながら、理解できる語彙を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語の小テストやDictationを取り入れ、言語の知識を定着させる。 ・季節の話題等から外国の文化について理解させると共に、日本の文化や習慣についても考えさせる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・英語による Oral Introduction を継続的に行う。 ・視聴覚教材 (CD/DVD/Picture Card/Flash Card/写真/絵) を用いて、わかりやすく導入する。 ・生徒に推測させる余地を残した発問を工夫する。 ・4技能を総合するタスクの設定を工夫する。 ・4技能を統合する活動の設定を工夫する。 	<p><文型指導></p> <p>生徒にとって身近な話題を選び、既習の語彙を用いた Oral Introduction でわかりやすい導入をし、学習意欲を喚起する。</p> <p><本文指導></p> <p>発問を工夫し、達成感のあるタスクに取り組ませる。ペアワークやグループワークを取り入れることですべての生徒の学習参加や協同学習を促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークやグループワークを通して、英語で表現する時間を設定する。 ・状況や場面設定をし、ターゲットセンテンスを活用した表現のバリエーションを増やす。 ・個々の単語の発音はもとより、音の変化やつながり、イントネーションについても理解・練習させた上で運用できるように指導する。 ・Recitation に取り組ませ基本表現を習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Classroom English を使用し、英語での指示に慣れさせる。 ・リスニングの機会と時間を確保し、英語の音に慣れさせる。推測させながらまとまりのある英語の概要やポイントをつかませる読み方を指導する。そのために、リスニングポイントやリーディングポイントを与え、発問を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文に取り上げられている国やALTの国の文化を紹介したり、理解するためのDVD等の視聴覚教材を活用したりする。 ・語彙の理解・定着から、スピーキングにリンクする指導を意識する。例えば言語や文化の知識を用いた Retelling や Picture Describing などが活用できる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・発表活動とその評価をする。 ・学習した内容を用いた自己表現をさせる (writing ,speaking) ・理解を確かめる問題演習を行う。 ・家庭学習につながるノート指導を行う。 ・宿題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意味が理解できる英文を試写させることで、発音と文字を再確認する作業をする。 ・音読課題を課す。 ・授業時間内に少し宿題に取りかからせることでSlowLearnersへの個別指導や声かけができる。 ・基礎基本の定着を確かめる機会を設定し、達成感を持たせ、学力格差をなくしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Speaking か Writing により学習内容を活用した自己表現をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Listening か Reading によって理解したことを確かめるための True or False や QA を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒に共通するエラー (時制・人称・単数複数・主語の設定・基本的な文型など) について、言語運用の観点から取り上げ、板書するなどして定着を図る。